

## 福井県聴覚障がい者センター

# ふくいの風



## 第6号 平成26年9月1日発行

社会福祉法人 福井県聴覚障がい者協会  
情報提供施設 福井県聴覚障がい者センター  
FAX 0776-63-6692 TEL 0776-63-5572  
不幸せな人が一人もない社会実現のために

### 施設長あいさつ

残暑お見舞い申し上げます。台風が近づくと同時に梅雨前線が停滞し各地でゲリラ豪雨にさらされ局地的被害が起こっています。同時に水難事故が多発し、特に夏休みの事故(海、河川、溜池等)が圧倒的に多かったようです。時間帯も昼過ぎから夕方5時頃までが危険時間帯だそうです。地球規模の温暖化に加え、局地的な都市化も影響しているといえます。さて「ふくいの風6号」をお届けいたします。6月に発行になりました「平成25年度福井県聴覚障がい者センター事業報告書」を作成(全34頁)し事業について報告を致しました。関係機関・団体に送付しましたのでご高覧頂ければ幸いです。

まだ各地では、河川の氾濫や土砂崩れなど、大きな被害に見舞われています。熱中症対策等ご健康にご留意頂き、暑さを乗り切られますようお祈りします。

平成25年度事業報告書

### 手話通訳・要約筆記派遣事業対策委員会開催

当センターでは聴覚障害者の社会生活におけるコミュニケーションの円滑化を支援し、社会参加を促進するため、「手話通訳者及び要約筆記者・要約筆記奉仕員」を派遣しています。対象は、企業・官公庁・各種団体です。聴覚障がい者の方は、それぞれの市町の担当課にお申し込みください。なお、当センターでも窓口を紹介しています。

福井県の情報提供施設設立時に、「手話通訳」と「要約筆記」との派遣要綱の一元化を議論しましたが、当面平成25・26年度は暫定的に、従来の要綱を使用することになりました。

昨年度末に、手話通訳者と要約筆記者・奉仕員の意見を伺い、理事会・評議員会に提案したところ、平成27年度より「新しい要綱」で実施する運びとなりました。

「派遣事業対策委員会」を発足し、派遣費・交通費等の見直しを図ることとなり、8月12日(火)に協議が行われました。

附則・運営細則等の改訂については、改めて理事会の承認を経る必要があり、今しばらく猶予をいただきたいと思っております。

### 講師伝達講習にご参加ください

今年度から、手話奉仕員養成テキストの改訂でDVDが付くようになり、指導の手引も改訂されました。

「養成担当講師連続講座」に福井県から1泊2日8回講座の埼玉会場に4名、坂井市から8回講座の福岡会場に2名、敦賀市から福岡会場前半の4回に2名を、委託を受け派遣しています。

県内で手話奉仕員養成講座講師を担当している方、および今後指導を予定している方を対象に、「連続講座」の内容報告を受け指導法を学んだ上で、模擬授業を行って見る『伝達講習会』を開催します。

期日：H.26.9/27(土) 10/26(日) 11/15(土) 11/30(日) 12/7(日) H.27.1/18(日) 2/8(日) 3/15(日)

時間：13:00～17:00 応募締切：9月16日(火)

会場：鯖江市健康福祉センター「アイアイ鯖江」2F 大会議室

10/26(日) 11/15(土)のみ越前市福祉健康センター「ハート・フル・たけふ」4F 大会議室

受講料：無料 ※手話奉仕員養成テキスト 3,240円+手話奉仕員指導書 2,700円(必須)

## 社会福祉主事資格認定面接授業に参加して

7月27日(日)～31日(木)の通信課程面接授業(スクーリング)に事務局長の石田と職員竹原が参加しました。

神奈川県中央福祉学院「ロフォス湘南」における研修ですが、前泊が必要なため6日間の出張となり、8講義1演習を受講しました。

年間16回の面接授業(スクーリング)の内、全国社会福祉協議会より聴覚障害者受講の情報保障対応のため第7回受講への変更指示を受け、大分県からの聴覚障害男性と同席することになり、すべての講義と演習に手話通訳が2名ずつ配置されました。

1日目の2講義に引き続き、オリエンテーションと交流会が行われましたが、さすがに交流会には手話通訳の用意はなく、石田が務めました。

2日目は講義に引き続き午後から演習があり、聴覚障害者2名と同じグループに参加するよう依頼があり、結局5日間とも3名で行動を共にしました。

4日目は2つの講義に引き続き、講義要綱と当日配布コピーおよび自筆メモ参照可の20問の2択問題で50分間の面接授業テストを受験しました。

会場付近には、坂の途中徒歩約10分の距離にコンビニが1軒あるだけで、完全な会場への缶詰状態でしたが、テスト終了後に初めて逗子市にバスで降り、他県からの受講者7名(殆どが介護施設職員)と飲み会で親睦を深めました。

5日目の特別講義の後、閉講式で面接授業テストの正解例の配布があり、第7回受講215名の受講者全員が60点以上で修了し、満点が57名いたことの発表がありました。

講師陣が一流であるが故に、専門知識や豊富な事例を挙げての講義には2時間から2時間半では時間不足で、消化不良を感じました。

通信授業16科目全ての答案を提出しなければ修了テストを受験できないため、今後2ヶ月毎に3科目の答案およびレポート提出を厳守するよう心掛け、3月の修了テストの合格をめざします。(石田 稔)

社会福祉主事資格認定通信課程面接授業(スクーリング)受講期間の5日間で、7月31日までの第一レポート提出〆切に間に合うよう必死に答案とレポートを済ませて無事提出しました。

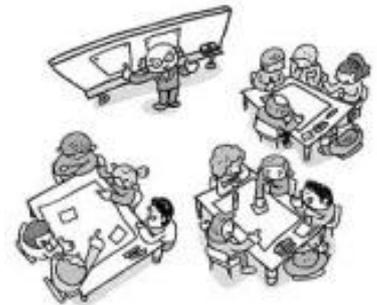
「ロフォス湘南」は立派なホテルでしたが、全禁煙室でした。2階に喫煙のためのベランダがあり、喫煙者が集まり、県外から来た介護者と身振りを交えながら、手話を教えたり会話できて楽しかったです。

講義は通訳を見ながら受講しましたが、専門語が多くて内容が分かりにくかったけれど、講義によっては内容が理解できた所もあります。しかし、5日間で7時間ずつの授業中ずっと手話通訳を見続ける時間が長く、眠たくて2分ぐらい居眠りしてしまいました。

なんとか無事に面接授業テストを受験し、結果はギリギリ60点で合格しました。

通訳者付きで講義と演習の面接授業を受けることができ、充実した学習ができたと思いました。

今後、あと3つのレポートと修了テストも合格を目指して頑張りたいと思います。(竹原 晴彦)



## 2014年度コミュニケーション支援担当者研修会

期日：平成26年7月16日～7月18日

会場：京都市聴覚言語障害センター

1 日目は、一般社団法人 全国難聴者・中途失聴者団体連合会理事長 高岡正氏に続いて、京都市聴覚言語障害センター臨床心理士 若狭妙子氏の講義がありました。高岡氏からは、難聴者から見た意思疎通支援事業の意義と課題、若狭氏からは、軽度難聴者としての苦しみや思いをご自身の生い立ちを通してお話しいただきました。お二人のお話から、難聴者が手話を獲得する事がいかに重要であるかを強く感じました。また、兵庫と京都より難聴者関連事業の取り組みの報告があり、難聴者のニーズや必要な社会資源について非常に参考になりました。

2 日目は大谷大学教授 山下憲昭氏よりスーパーバイズをテーマに講義がありました。スーパービジョンの意義を社会福祉全般の視点から説明していただき、コーディネーターに課せられている任務の重要性を改めて認識することになりました。グループ討議では神奈川、岡山、滋賀のセンターから事例提起があり、参加者同士が忌憚無い意見を交わしました。各県が似通った問題や課題を抱えていることもわかり、問題を共有することにより、解決方法のヒントを得ることができました。

3 日目は意思疎通支援事業の概要をテーマに、一般社団法人全日本ろうあ連盟 中橋道紀氏より手話通訳派遣事業の現状や、制度の講義、また地域格差など課題の指摘がありました。錚錚たる講師陣による研修ということで、初めて参加する身としては非常に緊張しましたが、各県のコーディネーター同士、和気あいあいと情報交換をし、交流を深めることができました。今回、日程が祇園祭の宵山、山鉾巡業と重なり、夏の京都を彩る大祭典を横目に（と言うか何処で何が行われているのか全くわからないまま）中身の濃い3日間を終了しました。

手話通訳・要約筆記派遣担当 西川 康子

## 2014年度手話通訳者全国統一試験受付開始

平成26年12月6日(土)に手話通訳者全国統一試験が行われます。

今年は、県社会福祉センターの耐震工事で騒音の懸念があるため、福井市研修センターで行うこととなりました。

手話通訳に必要な基礎知識と国語の筆記試験ならびに、手話の要約と場面における聞き取り及び読み取り通訳の実技試験を行います。

10月10日(金)が申込み締め切りで、合否発表は来年3月10日(火)の予定です。

4年後の国体と全国障がい者スポーツ大会もあり、一人でも多くの受験と合格を願っています。

お問合せ、お申し込みは当聴覚障がい者センター事務所まで。

## 要約筆記者移行研修事業のご案内

H.26.11/22(土) 23(日) 12/13(土) 14(日) H.27.1/10(土) 11(日) 1/18(日) 1/24(土)に、要約筆記者移行研修事業を開催いたします。

既に「要約筆記奉仕員」として活動している人に対し、補講を行うことにより「全国統一要約筆記者認定試験」の受験および合格率を高め、登録要約筆記者の増加を目的として、全国要約筆記問題研究会本部より実技講師をお招きし、特別講義に大学教授等をお迎えして行うものです。こちらも県社会福祉センターの耐震工事で騒音の懸念があるため、サンドーム福井の102研修室をご用意しました。

現在要約筆記者養成を受講中の方も移行研修を受講可能とするため、11月13日(木)を申込み〆切とさせていただきます。お問合せ、お申し込みは当聴覚障がい者センター事務所まで。

## 平成 25 年度職員研修・出張関係報告

平成 25 年度、職員に対する研修・出張について参加致しましたので、ご報告させていただきます。

開催日	参加者	参加名称と目的	開催地	主催
6.27～28	石田事務局長	名称:全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会・全国聴覚障害者情報提供施設大会 目的:情報交換・交流	新潟県 新潟市	全国聴覚障害者情報提供施設協議会
8.10	石田事務局長	名称:京都聴覚障害児デイサービス視察 目的:聴覚障害児放課後児童デイサービス事業視察	京都府 京都市	福井県聴覚障害学生を支援する会
10.23	大西職員	名称:全国統一要約筆記者認定試験説明会 目的:全国統一要約筆記者認定試験実施の実務面説明会	広島県 広島市	NPO法人全国要約筆記問題研究会
11.13～15	石田事務局長	名称:全国聴覚障害者情報提供施設協議会ソフト制作担当者研修会 目的:ビデオ制作担当者知識・技術レベルアップ	福岡県 春日市	全国聴覚障害者情報提供施設協議会
11.22～23	事務局長 竹原職員	名称:手話通訳者養成担当講師リーダー養成研修会 目的:手話通訳者養成担当講師連続講座修了者への改訂テキストのポイント等指導	新潟県 糸魚川市	(社福)全国手話研修センター
1.15～17	石田事務局長	名称:聴覚障害者関係施設等管理職員研修 目的:管理職員として必要な知識の習得、資質向上を図るとともに情報交換を図る	京都府 京都市	(社福)全国手話研修センター
2.15～16	竹原職員 西川職員	名称:第 30 回全国手話通訳問題研究討論集会 in 大阪 目的:手話通訳制度や聴覚障害者に関わる問題を考え課題解決に向け討論する	大阪府 大阪市	全日本ろうあ連盟 全国手話通訳問題研究会
2.22～23	竹原職員	名称:第 14 回全国福祉施設聴覚障害職員会研修会 目的:聴覚障害職員が利用者支援や実践職員集団の課題を論議し力量を高める	福井県 丹生郡 越前町	全国ろう重複施設連絡協議会・全国高齢聴覚障害者福祉施設協議会

## 平成 26 年度職員研修・出張関係予定

平成 26 年度、職員に対する研修・出張の予定を掲載させていただきます。

開催日	参加者	参加名称と目的	開催地	主催
6.25～27	石田事務局長	名称:全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会・全国聴覚障害者情報提供施設大会 目的:情報交換・交流	長崎県 長崎市	全国聴覚障害者情報提供施設協議会
7.16～18	西川職員	名称:コミュニケーション支援担当者研修会 目的:聴覚障害者情報提供施設通訳等事業担当職員資質向上と派遣事業のあり方を考える	京都府 京都市	全国聴覚障害者情報提供施設協議会
7.27～31	竹原職員 事務局長	名称:社会福祉主事通信課程面接授業 目的:社会福祉主事資格認定取得のための通信課程におけるスクーリング	神奈川県 葉山町	全国社会福祉協議会中央福祉学院
9.13～15	石田事務局長	名称:手話通訳者養成担当講師リーダー養成研修会 目的:手話通訳者養成担当講師連続講座修了者への改訂テキストのポイント等指導Ⅱ	兵庫県 神戸市	(社福)全国手話研修センター
11.1～2	竹原職員	名称:第 2 回全国防災対策会議 目的:防災ネットワーク・支援体制づくりを進める中で、災害救援体制を強化し、全国の仲間と協働して取り組む	福島県 郡山氏	聴覚障害者災害救援中央本部
11.5～7	石田事務局長	名称:全国聴覚障害者情報提供施設協議会ソフト制作担当者研修会 目的:ビデオ制作担当者知識・技術レベルアップ	青森県 青森市	全国聴覚障害者情報提供施設協議会
11.22～23	竹原職員	名称:手話通訳者養成担当講師リーダー養成研修会 目的:手話通訳者養成担当講師連続講座修了者への改訂テキストのポイント等指導Ⅱ	新潟県 糸魚川市	(社福)全国手話研修センター

平成25年度会計決算報告

資金収支計算書

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日 (単位:円)

勘定科目	予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
<b>【事業活動による収支】</b>				
(収入)				
障害福祉サービス等事業収入	34,504,860	33,754,675	750,185	
経常経費寄附金収入	700,000	4,351,637	△ 3,651,637	
受取利息配当金収入	0	4,579	△ 4,579	
その他の収入	790,661	557,880	232,781	
事業活動収入計(1)	35,995,521	38,668,771	△ 2,673,250	
(支出)				
人件費支出	22,281,096	19,913,052	2,368,044	
事業費支出	7,580,225	8,327,756	△ 747,531	
事務費支出	3,652,300	2,703,755	948,545	
事業活動支出計(2)	33,513,621	30,944,563	2,569,058	
事業活動資金収支差額(3)=1-2	2,481,900	7,724,208	△ 5,242,308	
<b>【施設整備等による収支】</b>				
(収入)				
施設整備等寄附金収入	0	21,860,709	△ 21,860,709	
施設整備等収入計(4)	0	21,860,709	△ 21,860,709	
(支出)				
固定資産取得支出	0	14,341,563	△ 14,341,563	
施設整備等支出計(5)	0	14,341,563	△ 14,341,563	
施設整備等資金収支差額(6)=4-5	0	7,519,146	△ 7,519,146	
<b>【その他の活動による収支】</b>				
(支出)				
積立資産支出	0	106,596	△ 106,596	
その他の活動支出計(8)	0	106,596	△ 106,596	
その他の活動資金収支差額(9)=7-8	0	106,596	106,596	
当期資金収支差額合計(11)=3+6+9-10	2,481,900	15,136,758	△ 12,654,858	
当期末支払資金残高 11+12	2,481,900	15,136,758	△ 12,654,858	

貸借対照表

平成26年 3月31日現在

(単位:円)

勘定科目	当年度末	前年度末	増減
<b>流動資産</b>	16,451,936	0	16,451,936
現金預金	14,735,072	0	14,735,072
未収金	1,235,905	0	1,235,905
貯蔵品	0	0	0
立替金	389,359	0	389,359
仮払金	91,600	0	91,600
<b>固定資産</b>	14,323,719	0	14,323,719
<b>基本財産</b>	10,000,000	0	10,000,000
定期預金	10,000,000	0	10,000,000
その他の固定資産	4,323,719	0	4,323,719
建物	540,169	0	540,169
車輛運搬具	1,834,815	0	1,834,815
器具及び備品	1,299,289	0	1,299,289
ソフトウェア	542,850	0	542,850
退職給付引当資産	106,596	0	106,596
<b>資産の部合計</b>	30,775,655	0	30,775,655
<b>流動負債</b>	1,315,178	0	1,315,178
事業未払金	670,658	0	670,658
未払費用	363,017	0	363,017
預り金	273,103	0	273,103
仮受金	8,400	0	8,400
<b>固定負債</b>	106,596	0	106,596
退職給付引当金	106,596	0	106,596
<b>負債の部合計</b>	1,421,774	0	1,421,774
<b>基本金</b>	20,000,000	0	20,000,000
次期繰越活動増減差額	9,353,881	0	9,353,881
(うち当期活動増減差額)	9,353,881	0	9,353,881
<b>純資産の部合計</b>	29,353,881	0	29,353,881
<b>負債及び純資産の部合計</b>	30,775,655	0	30,775,655

事業活動計算書

自平成25年4月1日 至平成26年3月31日 (単位:円)

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
<b>【サービス活動増減の部】</b>			
(収益)			
障害福祉サービス等事業収益	33,754,675	0	33,754,675
経常経費寄附金収益	4,351,637	0	4,351,637
サービス活動収益計(1)	38,106,312	0	38,106,312
(費用)			
人件費	20,019,648	0	20,019,648
事業費	8,327,756	0	8,327,756
事務費	2,703,755	0	2,703,755
減価償却費	124,440	0	124,440
サービス活動費用計(2)	31,175,599	0	31,175,599
サービス活動増減差額(3)=1-2	6,930,713	0	6,930,713
<b>【サービス活動外増減の部】</b>			
(収益)			
受取利息配当金収益	4,579	0	4,579
その他のサービス活動外収益	557,880	0	557,880
サービス活動外収益計(4)	562,459	0	562,459
サービス活動外増減差額(6)=4-5	562,459	0	562,459
経常増減差額(7)=3+6	7,493,172	0	7,493,172
<b>【特別増減の部】</b>			
(収益)			
施設整備等寄附金収益	21,860,709	0	21,860,709
特別収益計(8)	21,860,709	0	21,860,709
(費用)			
基本金組入額	20,000,000	0	20,000,000
特別費用計(9)	20,000,000	0	20,000,000
特別増減差額(10)=8-9	1,860,709	0	1,860,709
税引前当期活動増減差額(11)=7+10	9,353,881	0	9,353,881
当期活動増減差額(14)=11-12-13	9,353,881	0	9,353,881
<b>【繰越活動増減差額の部】</b>			
前期繰越活動増減差額(15)	0	0	0
当期末繰越活動増減差額(16)=14+15	9,353,881	0	9,353,881
次期繰越活動増減差額(20)=16+17+18-19	9,353,881	0	9,353,881

## 第73回国民体育大会・第18回全国障害者スポーツ大会への準備

今年の10月に開催される第69回国民体育大会は長崎県で開催されます。国体後の11月1日(土)から3日(月)までの3日間は、「第14回全国障害者スポーツ大会」が開催されます。すでに多くの皆さんがご承知のように、平成30年には第73回大会として福井県での開催が決まっています。その名称も『福井しあわせ元気国体』、スローガンも『織りなそう 力と技と美しさ』と決定しています。

また、全国障害者スポーツ大会は第18回を迎え『福井しあわせ元気大会』として開催されます。その折、手話通訳と要約筆記の要員が必要となります。手話や要約筆記のできる情報支援ボランティア約500人の要員確保が望まれています。それぞれ手話通訳士、手話通訳者、手話奉仕員、要約筆記者、要約筆記奉仕員というランクがありますが、前5号でご報告した通り、3月に手話通訳者全国統一試験及び、全国統一要約筆記者認定試験それぞれ4名、合計8名の方が合格されました。しかし、大会まであと4年であることを考えると要員の確保が大きな課題です。

今後、福井県と聴覚障害者情報提供施設である当センターが手を携え、共に頑張ります。

そこで、この機関誌をご覧の皆様にお願いたします。手話通訳者、要約筆記者、手話及び要約筆記奉仕員の確保に対し、大きな呼びかけを致します。ご協力を宜しくお願い致します。

当センターと致しましても、手話通訳及び要約筆記の養成を意識した、「特別講習会」を実施していく積もりであります。

全県民を挙げて『福井しあわせ元気国体・しあわせ元気大会』を成功させようではありませんか!!

**4年後の国体・大会には、「手話や要約筆記のできる情報支援ボランティア」が約500名必要です!**

みなさん、頑張って国民体育大会でのボランティア活動に参加致しましょう。平成27年度に入ると、数々のボランティアの皆さんの募集があると思います。是非、是非、ご協力をお願いいたします。特に、要約筆記奉仕員の人員が大幅に足りないことが予測されています。何卒、ご支援をお願い申し上げます。

### 編集後記

今年の梅雨からの台風、夏休みにかけての豪雨には心が痛みました。8月後半に起きた広島県の被害は甚大でした。被災し亡くなられた方々や行方不明の方々、被災された多くの方々、更にご家族の方々へ深甚なる哀悼の意を表します。また水害などの自然災害は、作物や家屋等人間社会の財産のみならず、生物や山野にも大きな傷跡を残しました。本当に暗く悲しいニュースも多々ありましたが、一方、夏の甲子園で大活躍された「敦賀気比高校野球部」の見事な奮戦、オーストラリアで開催された「パンパシフィック水泳大会」の選手の皆さん、女子バレーボールWGP2014の日本チームの活躍等々に、大きな力を頂いた方も多かったと思います。スポーツの持つ純粋な戦いは、人種や国・地域を超越し、人間の持つ無限の可能性を示してくれるイベントであると思います。

話は変わりますが、最近、作家・百田尚樹氏の本にのめり込んでいます。「永遠の0」に始まり、一気に10冊を読みました。勿論、1冊を除き後は文庫本ですが……。中でも「永遠の0」と「海賊とよばれた男」の2冊には何回も泣かされました。聞くところによれば百田氏は、1冊書く度に調査に明け暮れ、倒れるほど精魂を傾けて書き上げるらしいのです。又読んだ本のほとんどが(ボックスと「黄金のバンタム」を破った男はボクシングの話で百田氏自身学生時代にボクシングをしていました。)、異なるジャンルなので驚きです。この暑さも、やがて秋に入れば落ち着くでしょう。秋は食欲と読書の秋です。ゆっくりすることも大切。

良い本との出会いがあることを祈っています。(眞家記)



国体の「炬火(きょか)」マーク



全国障害者スポーツ大会マーク

